

## 教育長室からのお知らせ NO. 56(令和2年3月)

2011年3月11日に起こった東日本大震災からまもなく9年が経とうとしています。あの日を改めて振り返ってみますと、早春とはいえまだ寒さ厳しい午後でしたが、14時46分、これまでに経験したことのないような激しい揺れが私たちを襲いました。学校ではちょうど下校時刻と重なる時間帯でした。プールの水が大量にしぶきを立てて溢れ出し、電信柱と電線は落下してしまうのではないかと思うほど前後左右に大きく揺れました。下校途中だった子どもたちは、どれほど心細かったことでしょうか。呆然となったのか、あるいは怖さに立ちすくんだか……。経験のない激しい揺れにさぞ驚いたことでしょう。校内でまだ授業等に取り組んでいた子どもたちも、それでも日頃の訓練の甲斐あってか、子どもたちがすぐさま机の下にもぐって危険回避の行動を取ることができたということを知り、「訓練しておいて良かった」とホッと胸をなでおろしたのを昨日のこのように思い出します。

その後、私たちが住むこの関東地方を中心とした地域では節電に向けた計画停電が始まり、夜の街並みも明かりが消えてひっそりとして暗くなり、初めて電気が使えない心もとなさを味わいました。ガソリン不足や鉄道の間引き運転といった輸送力低下は通勤に影響を与え、物流停滞は小売店の棚から水やお米をはじめとした様々な食料品や生活用品を消し去りました。またさらには、福島第一原発事故の深刻な状況により、私たちの生活はいつそう不安になりました。

こうした混乱と不安の最中、4月7日には始業式、そして小学校では4月8日に入学式が執り行われました。保護者の方々は、この日の準備のためにどれほど苦労されたことでしょうか。子どもたちが希望と安心のうちに小学校生活をスタートさせることができるよう、保護者の皆さんが抱えていた不安を子どもたちには伝わらないように懸命に努めたのではないかと思います。この当時の1年生が、もうまもなく中学校を卒業し高校や社会へと巣立っていく現在の中学3年生です。

保護者の懸命さと同様に奮闘したのは教職員も同じであったと思います。自身の家族のことも抱えつつ、学校では子どもたちの前で明るく希望を語り、助け合いや人として大切なことを改めて丁寧に指導し、むしろ心温かな教育活動を実践しました。給食関係業務も、牛乳をはじめとする食材調達に加え、放射性物質検査を経た食材の確保や生産地の選定に至るまで細かな配慮をしていました。空間放射線量低減のために土砂除去やプール清掃といった環境整備など、本当に教職員が一体となってきめ細かな「子どもたちのために」との弛まぬ努力を積み重ねました。こうした惜しみない教職員の愛情が注がれた子どもたちが、これからまさに9年間の義務教育を終えて巣立っていかうとしているのです。改めて子どもたちに「卒業おめでとう」と声を掛けてあげようと思います。同時に、教職員にも「ありがとうございました」と心より感謝を伝えたいと思います。今年の3月11日「防災教育の日」と中学3年生卒業の日は、私にとって感慨を新たにする日となるのです。